

木曽森林環境保全ふれあいセンター

これまでの取組（2004年 10月～11月）

【2004年11月】

城山史跡の森倶楽部と木曽森林管理署が協定を締結

長野県木曽福島町の市街地に隣接する城山の森林環境保全に取り組む「城山史跡の森倶楽部」が11月2日に発足しました。同日、木曽森林管理署長と倶楽部との間で国有林の森林整備と利用についての協定を締結し、協定調印式のほか、当センター及び信州大学によるプレゼンテーションや地元の郷土史研究家・田中先生による講演も行われました。

「城山史跡の森倶楽部」を構成する主なメンバーは、史跡の森城山風景林を愛する会、NPOふるさと交流木曽（ふるさと体験館）、NPO木曽ひのきの森、地元関係地区、町、植物、昆虫、野鳥、歴史などの研究者、木曽山林高校、長野県林業大学校、木曽地方事務所、興禅寺などとなっています。

今後は、協定に基づき歩道や森林整備作業、地域や上下流域の交流を図りながら森林環境保全意識の啓発活動等の事業のほか、パンフレット等を作成しそれぞれの団体活動の中で森の大切さをPRして行く予定です。

なお、活動は全てボランティアで取組むこととしており、活動への参加を希望する団体や個人を募っていく予定です。



【2004年10月】

・NPOやまぼうし自然学校との協働による自然観察会の実施

色鮮やかだった紅葉もいよいよ終わりを告げようとしていた10月31日、森林浴発祥の地である長野県上松町の赤沢自然休養林において、NPOやまぼうし自然学校主催による自然観察会が実施され、当センターからも2名の職員がイベントに参加しました。

前日から雨が予想されていたにもかかわらず、雨は早朝にはあがり、思わぬ晴天に主催者・参加者ともに大喜びでした。

晩秋の遊歩道を歩きながら周囲に目を配ると、マルバノキやシロモジなどは鮮やか紅葉を見せていましたが、ホオノキはすっかり落葉して、その大きな葉っぱが道を埋めつくしていました。

また、ヒバ(アスナロ)やヒノキが天然更新している場所で森を見ながらその原因を学習したり、倒木や切り株上での更新の様子を確認したりと、楽しむだけではなく内容も濃い素晴らしい観察会となりました。

イベントの様子は、やまぼうし自然学校のホームページにも詳しく紹介されています。是非ご覧下さい。

<http://homepage3.nifty.com/yamaboushi-ns/fclub/report/20041031.htm>



・「緑の挑戦者」森づくりへ間伐作業

NPO(民間非営利団体)名古屋市緑の挑戦者の第3回森づくり協力事業が、10月30日長野県木曽福島町の町有林で行われました。

愛知や岐阜方面から、約40人が参加して間伐作業にはげみました。同団体が平成16年度からスタートさせた事業できれいで豊かな水を利用できるようにと、水源地の山の手入れを体験しながら育林の手助けをつづけています。

作業は、地元の役場職員や当センター職員の指導を受けて実施しました。

現地では、カラマツの20余年生、面積約3haの整備を陽光を考慮しながら、慎重に切り倒しました。

参加者達は、指導者の作業の注意事項、木の倒し方、検測処理を聞いて、早速ノコギリを使用して林業体験に汗を流していました。

